

## 第2章 西東京市における地域の現状及び福祉課題

### 1. 統計から見る西東京市の現状

西東京市の状況について取りまとめると、以下のとおりとなります。

#### 人口・世帯について

- 総人口は年々増加しており、平成 30（2018）年 1 月 1 日現在では、201,058 人となっています。
- 00～14 歳の年少人口、15～64 歳の生産年齢人口の割合は減少していますが、65 歳以上の高齢人口の割合は増加しています。
- 1 世帯あたり人員は減少しています。
- 単独世帯や夫婦と子どもから成る世帯の割合が多く、特に夫婦と子どもから成る世帯は全国・東京都よりも多くなっています。

#### 各地区の状況について

- 0～14 歳は西部地区が 13.2%、15～64 歳は北東部地区が 65.3%、65～74 歳及び 75 歳以上は中部地区が 12.1%、13.2%でそれぞれ他の地区に比べてやや多くなっています。



#### 高齢者について

- 高齢化率の推移を見ると、平成 27（2015）年時点では 23.3%となっており、今後も増加し、2025 年には 25%を超えることが予測されています。
- 一般世帯に占める高齢者のみ世帯の割合を見ると、20.8%となっており、特に高齢夫婦世帯で都よりも多くなっています。

- 要支援・要介護認定率の推移を見ると、年々増加傾向にあり、平成 21（2009）年度から平成 29（2017）年度までで 5.4 ポイントの増加となっています。



#### 子ども・子育てについて

- 0～14 歳が減少傾向にあります。
- 人口ピラミッドを見ると、35～49 歳の子育て世代が多くなっています。



#### 障がい者について

- 障害者手帳所持者数の推移を見ると、いずれの手帳所持者も増加傾向にあります。
- 特に精神障害者保健福祉手帳登録者数は平成 20（2008）年度から平成 28（2016）年度までで約 2.2 倍の増加となっています。



#### 外国人市民について

- 外国人市民は、平成 30（2018）年で 4,309 人、人口割合は 2.14%となっています。

#### 生活保護について

- 生活保護率の推移を見ると、平成 28（2016）年までは年々増加していましたが、平成 29（2017）年では 2.04%と、横ばいになっています。

※元データは巻末の資料編「4. データ集」に掲載しています。

## 2. 市民アンケート調査結果の概要

市民アンケート調査結果について取りまとめると、以下のとおりとなります。

### 近所との付き合い

- 「打ち明け話ができる」「立ち話で世間話をする」が前回調査に比べて増加しています。



### 住んでいる地域における問題

- 高齢者に関すること、障がい児・者に関すること、子どもに関することのいずれの項目でも、「災害時の不安」「防犯」が高くなっています。また、「地域での孤立・見守り」「地域での交流・社会参加」もいずれも上位にあり、近年、孤立死や子育て家庭の孤立化が社会問題となっているなかで、すべての人が地域とのつながりをもつことの重要性がうかがえます。

- 近所とのつながりが薄い人も一定数いることがうかがえます。

### 地域で困っていること

- 災害時の不安について、災害発生時の対応が不明確であることや、隣近所の助け合いの関係が構築できていないことが挙げられています。
- 公共交通の充実について、自家用車をもたない高齢者の移動手段の確保が求められています。
- 福祉サービス・介護について、当事者が受けることができる支援やサービスを把握しきれていないことが指摘されています。
- 子育て支援や子どもの居場所について、遊び場の充実や保育の充実が求められています。

### 西東京市が安心して暮らせるまちとなるためのアイデア

- 自治会の活性化や地域の組織の連携強化・活性化と、それらから生まれるつながりを、地域での見守り活動につなげていくことが求められています。
- 緊急時の対応について、情報発信の充実や助け合いの関係性の充実が求められています。
- 福祉サービスについて、手続きの簡素化や介助者・介護者の心身の負担軽減が求められています。
- 情報提供について、多様な機会を通じた情報発信が求められています。
- 相談について、気楽に何でも相談できる窓口や、地域の関係づくりが求められています。
- 生活環境について、道路環境の整備、移動手段の確保等が求められています。
- 防犯について、安全な道路環境の整備や地域レベルの見守り活動が求められています。



※詳細は巻末の資料編「4. データ集」に掲載しています。

### 3. 保健、医療、福祉関係者懇談会結果の概要

#### テーマ1 生活に困窮している人への支援について

課題	解決に向けた取り組みのアイデア
<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な支援を受けることができていない</li> <li>本人に困窮の自覚がない</li> <li>家庭への関わりが難しい（介入困難）</li> <li>的確に相談・支援先につなげることが難しい</li> <li>複合的な原因を抱えている</li> <li>相談できる人が身近にいない</li> <li>子どもの貧困</li> <li>就労支援</li> <li>長期間の継続した支援が困難である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見・早期対応が重要である。</li> <li>ボランティア等、市民同士も支援ができるよう、人材を開拓する。</li> <li>周りに住んでいる方の協力を得る。</li> <li>市民には少しでも関心をもってもらい、できる範囲での支援をしてもらえるようにしていきたい。</li> <li>事業所の職員や身近な市民等が制度をしっかりと把握できるように支援してほしい。</li> <li>支援する側も普段から多様なネットワークをもつ。</li> <li>専門機関同士の連携は、定期的な情報交換や勉強会等、日頃からできることがある。</li> <li>民生委員との連携は大事である。</li> </ul>

#### テーマ2 相談・アウトリーチについて

課題	解決に向けた取り組みのアイデア
<ul style="list-style-type: none"> <li>複合化・複雑化している問題の受け入れが難しい</li> <li>アウトリーチのタイミングが難しい</li> <li>困っている実態がわかりづらい</li> <li>社会的背景・現状（児童数の増加）</li> <li>子どもの行き場が少ない</li> <li>（当事者に）安心を与えることが大事</li> <li>地域とのつながりをもたない人とのつながり方</li> <li>自分が問題を抱えていると思っていない</li> <li>連携の必要性</li> <li>これからのつながりづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当事者と相談機関をつなぐ人の存在も非常に重要である。「この人が言ってくれるのなら…」ということで、相談に行く人もいる。</li> <li>複合的な課題を抱えている人に対し、関係機関が制度の垣根を越えて一緒になってアプローチしていく。</li> <li>専門職の間にも相談をつなぐ人がいるとよい。</li> <li>「仕掛ける」アウトリーチ。「こういうことができる」ではなく、実際にやってしまうことも大事である。</li> <li>学校区ごと等狭い地域で見られる人がたくさんいるとよい。</li> <li>親の会等、共感してもらえる当事者の居場所があるとよい。</li> <li>困りごとの相談をきっかけに当事者の深い部分に入り込み、地域での支援につなげていく。</li> </ul>

#### テーマ3 地域における交流・居場所について

課題	解決に向けた取り組みのアイデア
<ul style="list-style-type: none"> <li>気軽に集まるためのしかけ</li> <li>世代間交流</li> <li>つながりの必要性の再認識</li> <li>困難を抱えている人へのアプローチ</li> <li>気軽に集まれる居場所</li> <li>場所の確保が必要、既存施設の活用</li> <li>子どもの居場所</li> <li>情報の周知</li> <li>担い手の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉法人の地域公益活動として関わるができる。</li> <li>居場所づくりのための担い手の発掘・育成に取り組んでいく。</li> <li>障がい者の居場所のコーディネート機能が社協に期待される。</li> <li>障がいがあっても働ける場の情報を地域で提供してもらえるとよい。</li> <li>地域子育て支援センターは地域に開く視点では、重要な立場である。</li> <li>サロンへ誘っても来ない人に対しては専門職がサロンにつなぐ役割を担ってほしい。</li> <li>体操教室、健康づくり等、興味のあるテーマは人が多く集まる。</li> <li>移動手段を確保する視点から、地域でどう支え合うかを話し合える関係性を考えていくことが必要である。</li> </ul>

※詳細は巻末の資料編「4. データ集」に掲載しています。

## 4. 地区懇談会結果の概要

### (1) 地域の中の関係性



- ・地域コミュニティが衰退している
- ・地域のつながりを必要と感じていない人が多くなっている
- ・転入出が多く、つながりがつくりづらい
- ・自治会のない地域がある。ある場合でも機能していなかったり、若い人の加入が少ない

地域の付き合いが弱くなっています。



- ・サロン等の地域の居場所や交流の場所が少ない
- ・場があっても周知されていない
- ・活動団体同士の交流等横のつながりが薄い
- ・空き家が増えているが活用できていない

交流の場が少なかったり、あっても周知されていません。

### (2) 助け合い・ボランティア



- ・ボランティアに取り組む人の高齢化や活動に新しく取り組む人が少ない
- ・ボランティアに参加したくとも、新たな活動へ参加しづらい
- ・ふれあいのまちづくり事業や助け合い活動があまり知られていない

ボランティアに取り組む担い手が不足しています。



- ・困りごとがあってもSOSを出さない人や、出せない人がいる
- ・近所付き合いが少ないことや個人情報保護の観点から、困っている人の把握が難しい
- ・制度の狭間の課題で困っている人がいる

困っている人の把握が困難になっています。

### (3) 生活面の不便さ



- ・市や社協の取り組み・サービス等の情報が届いていない
- ・近所付き合いが希薄で情報共有する機会がほとんどない
- ・相談先が複雑でわかりづらい

必要な支援や相談窓口などの情報が届きにくい状況です。



- ・地域によっては坂が多く、ちょっとした移動でも大変
- ・近所の商店などが閉店・衰退してしまい、徒歩圏内で買い物する場所がなくなっている
- ・公共交通機関等の便が悪く、買い物や病院に行くのに不便

交通の便が悪く、買い物や通院が不便な地域があります。

### (4) 防災・防犯面



- ・日頃のつながりがいいことから災害時の孤立が心配
- ・災害時の対応方法がわからない
- ・防犯に関しては、振り込め詐欺や空き巣等の犯罪被害がでている

防災・防犯面等いざという時の対応について不安がでています。

※詳細は巻末の資料編「4. データ集」に掲載しています。